

## 令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

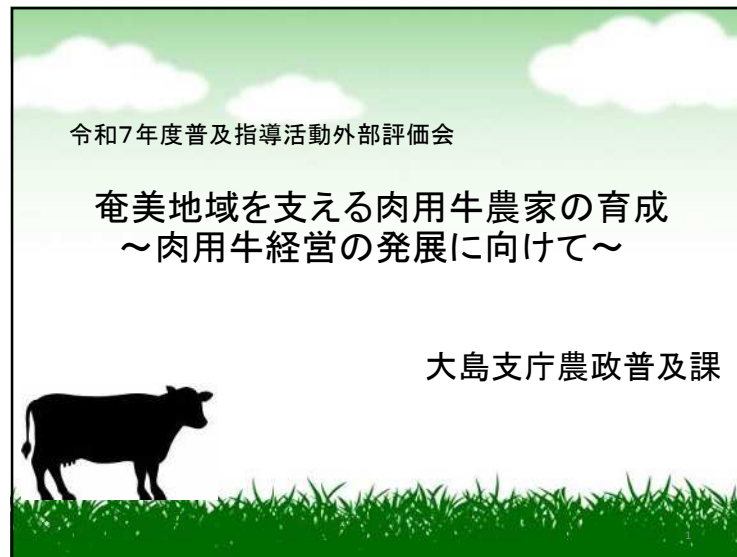
所属名: 大島支庁農政普及課

| 課題名② 奄美地域を支える肉用牛農家の育成 ～肉用牛経営の発展に向けて～ |                               |         |          |         |                  |                               |
|--------------------------------------|-------------------------------|---------|----------|---------|------------------|-------------------------------|
| 項目                                   | 評価の視点                         | 評価結果(人) |          |         | 外部委員からの<br>意見・提言 | 意見・提言等に対する改善策や<br>普及指導計画への反映等 |
|                                      |                               | 適当      | 概ね<br>適当 | 要<br>改善 |                  |                               |
| 課題の<br>設定                            | ①農業者や地域が必要とする課題であるか           | 3       | 1        |         |                  |                               |
| 対象の<br>選定                            | ②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか  | 3       | 1        |         |                  |                               |
| 活動体制・活動<br>方法                        | ③関係機関とうまく連携して活動しているか          | 2       | 2        |         |                  |                               |
|                                      | ④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか      | 2       | 2        |         |                  |                               |
|                                      | ⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか | 3       | 1        |         |                  |                               |
| 活動の<br>成果                            | ⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか    | 1       | 3        |         |                  |                               |
| 活動の<br>波及性と改善                        | ⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか       | 4       |          |         |                  |                               |
|                                      | ⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか    | 3       | 1        |         |                  |                               |

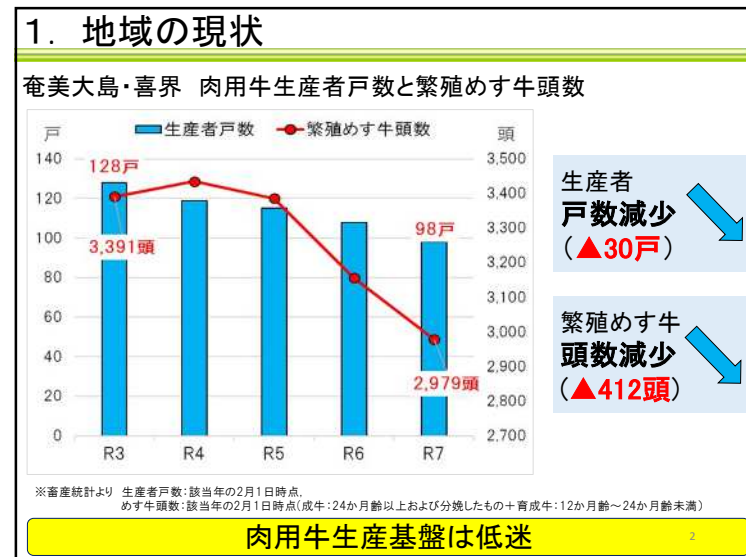
## 令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大島支庁農政普及課

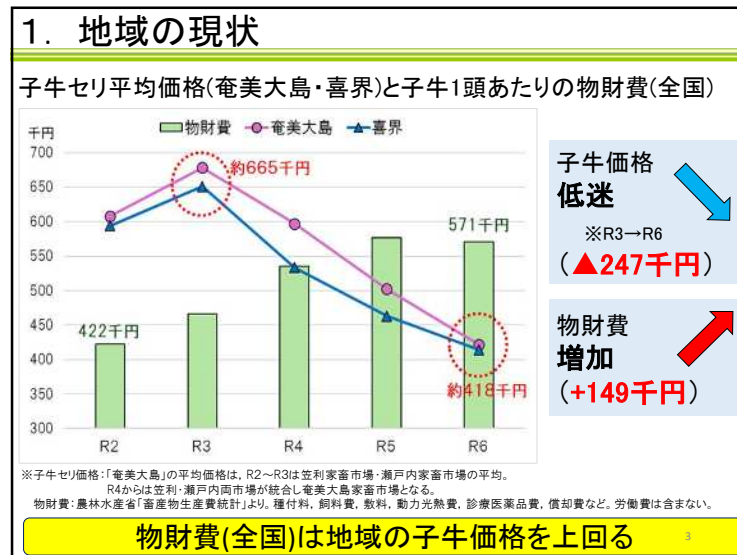
| 課題名② 奄美地域を支える肉用牛農家の育成 ～肉用牛経営の発展に向けて～ |                               |         |          |         |                                                                                                                                           |                                                                                                                                               |
|--------------------------------------|-------------------------------|---------|----------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目                                   | 評価の視点                         | 評価結果(人) |          |         | 外部委員からの<br>意見・提言                                                                                                                          | 意見・提言等に対する改善策や<br>普及指導計画への反映等                                                                                                                 |
|                                      |                               | 適当      | 概ね<br>適当 | 要<br>改善 |                                                                                                                                           |                                                                                                                                               |
| 課題の<br>設定                            | ①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか        | 9       | 1        |         | ・農家へのインタビューを行って農家から見た課題を入れてもよかった。<br>・経営管理能力の不足や飼育管理技術の課題に的確に捉えている。<br>・肉用牛農家の育成は最重要課題と考える。<br>・奄美地域において重要である。                            | 今後も日常の活動を通じて農家や関係機関と情報交換を行いながら、農家および地域の課題を抽出し、時宜に合った普及活動を実施してまいります。                                                                           |
| 対象の<br>選定                            | ②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか   | 8       | 2        |         | ・経営改善と生産性向上を目的としているが、成果指標の設定を明確にすればよい。                                                                                                    | 普及活動計画の成果目標に、経営管理に対する意識醸成に関連して「経営改善農家戸数」、自給粗飼料確保に関連して「飼料自給率」「飼料畑面積増加率」、子牛の商品性改善に関連して「日齢体重目標達成農家割合」を設定しています。数値が改善・目標数値が達成されていくよう、活動を行ってまいります。  |
| 活動体制・活動<br>方法                        | ③関係機関と連携して活動しているか             | 8       | 2        |         | ③農家を直接共働で取り組んでいる<br>④手段として具体例を示して説明していることで農家理解は深まったと感じ。<br>・現場ニーズに即し、関係機関との連携も構築されており、専門性を生かした指導体制となっている。<br>・分析結果と改善点等の共有。               | ・今後も関係機関と連携を図りながら、指導を行っていきます。<br>・活動への農家の理解促進を図るため、具体的な事例や数値を示しながら提案を行ってまいります。                                                                |
|                                      | ④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか        | 4       | 6        |         |                                                                                                                                           |                                                                                                                                               |
|                                      | ⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか | 8       | 1        |         |                                                                                                                                           |                                                                                                                                               |
| 活動の<br>成果                            | ⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか    | 4       | 6        |         | ⑥6／8戸の農家が取り組みを行ったことで評価できる。<br>・経営管理の意識付けに役立ったと思う。<br>・トランスバー導入に向けて土づくりの重要性を理解していただくなど活動として積極性が見られる。<br>・優良事例の共有等により未参加農家への普及を進めることが求められる。 | ・自給粗飼料確保のため、土壌分析を活用した施肥指導やトランスバーを含めた栽培管理指導を、継続して普及計画にも位置づけ、推進してまいります。<br>・経営管理や自給粗飼料生産の優良事例は、巡回や研修会(普及計画では年4回計画)等で情報提供し、未参加農家への波及を図ります。       |
|                                      | ⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか     | 5       | 4        |         | ・土壌分析結果をもとに様々な課題解決に取り組んでいると思われる。<br>・自給粗飼料の確保のため土壌分析と栽培管理指導の徹底。                                                                           |                                                                                                                                               |
| 活動の<br>波及性と改善                        | ⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか        | 7       | 3        |         | ・成果としてマニュアルをまとめたことで今回の取組が継続的に活用されることが見込まれる。<br>・本取組の継続により奄美地域の肉用牛経営の安定化と発展が期待される。<br>・担い手不足の解消について具体的な提言が欲しかった。                           | ・成果物である喜界町版マニュアルを参考にしながら、来年度の普及活動で計画している「子牛の自給粗飼料による給与体系の実証」を進めていきます。<br>・担い手不足の解消のため、新規就農者に対し、巡回や研修等での技術指導や経営改善指導(経営分析や資金関連に基づく)を行い、定着を図ります。 |
|                                      | ⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか    | 6       | 3        |         |                                                                                                                                           |                                                                                                                                               |



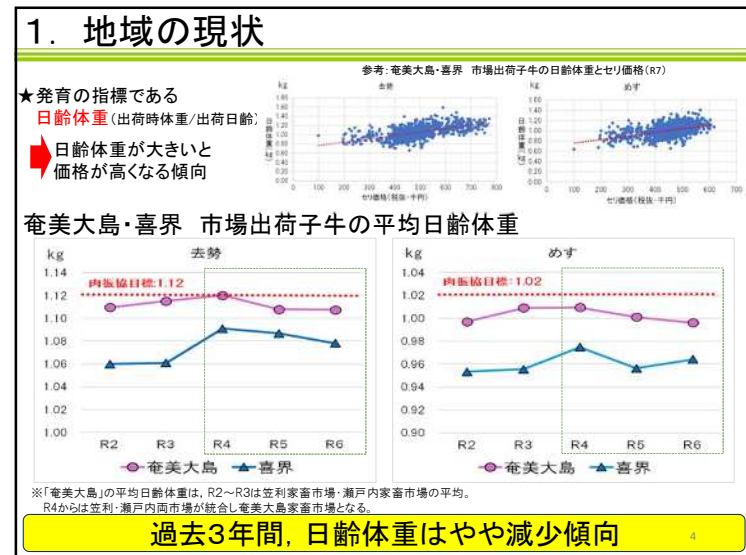
1



2

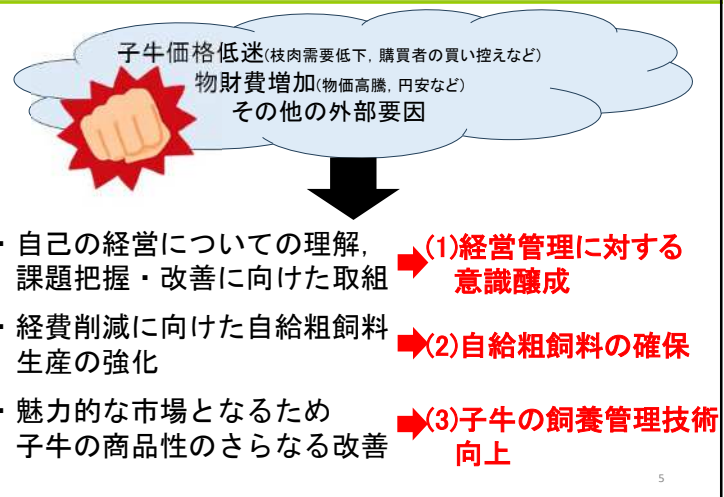


3



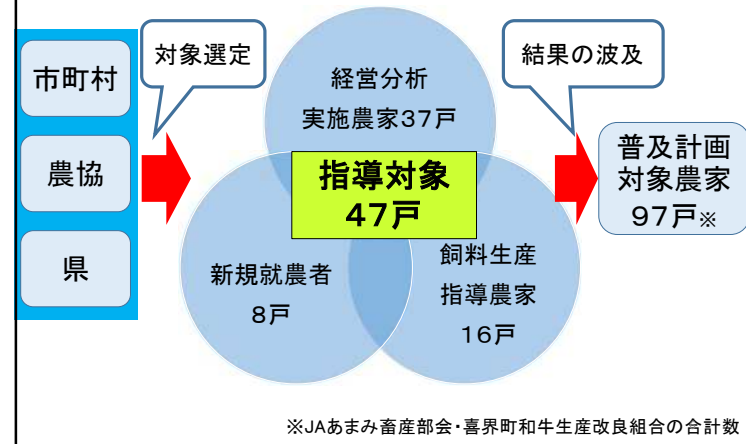
4

## 2. 課題の設定



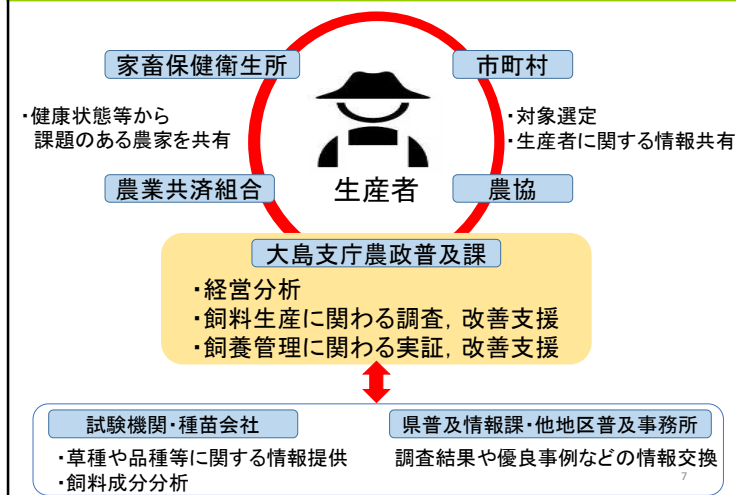
5

## 3. 対象の選定



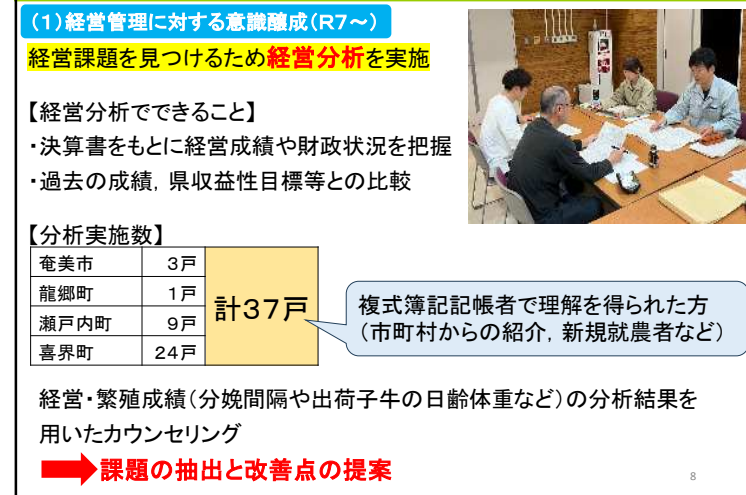
6

## 4. 活動体制



7

## 5. 活動内容



8

## 5.活動内容

### (2) 自給粗飼料の確保

(飼料生産に関わる管内状況)

#### 課題1

- ・永年草のローズグラスを主に栽培  
永年草の活用はコスト削減が期待できる  
「褐点病」により枯れる事例もあり

➡「**褐点病**」に強い永年草の推進

#### 課題2

- ・土壌pHが低い飼料畑も見られる→生育不良

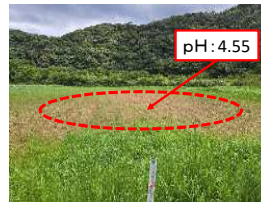
| 飼料作物の適正範囲<br>(県土壌改良指針) | 奄美大島 35圃場(R3-R4調査) | 圃場数 |
|------------------------|--------------------|-----|
|                        | pH範囲               |     |
| 6.0～6.5                | 3～4                | 2   |
|                        | 4～5                | 6   |
|                        | 5～6                | 13  |
|                        | 6～                 | 14  |

- ・永年草を適期に植え替え(更新)しないことによる  
地力の低下

➡ **収量向上に向けた土づくり**



R4に瀬戸内町で見られた褐点病



酸性土壌によるものと思われる  
生育不良

9

## 5.活動内容

### (2) 自給粗飼料の確保

#### (2)-① 褐点病に強い永年草の推進

【R4～】ローズグラスに代わるものとして**トランスパーラ**を推進



#### トランスパーラの特長

- ・褐点病に強い・湿害や雑草に強い・細茎で嗜好性も良い・種子ではなく茎で繁殖

→先進地域・農家からの情報収集や現地検討を行いながら導入を進める

【R6～】・トランスパーラ導入農家への栽培管理指導

- ・収量や栄養価、コストなどのデータ収集

#### (2)-② 収量向上に向けた土づくり(R6～)

土壌分析結果をもとにした**施肥指導**を実施

【対象】

- ・畑の更新を予定している生産者
- ・飼料作物の生育不良が見られる生産者 など

【実施数】8戸



10

## 5.活動内容

### (3) 子牛の飼養管理技術向上

#### (3)-①

喜界町版子牛育成飼料給与マニュアルの検討(R6)

(喜界町)

- ・自給粗飼料を子牛へ給与する農家も多い。
- ・過去の購買者アンケートで、出荷子牛のバラツキが多いとの回答があった。

➡**地域の実情に応じたマニュアルの必要性**

【対象】

1戸・・・自家産ローズグラスを給与  
セリ価格・出荷体重は市場平均以上

【調査】

飼料給与内容、ローズグラスの栄養価、  
飼料生産の概要、子牛の発育(体高・胸囲・腹囲)



発行：鹿児島県肉用牛振興協議会

11

## 5.活動内容

### (3) 子牛の飼養管理技術向上

#### (3)-2 新規就農者への研修会開催(R6～)

➡**新規就農者の定着と知識・技術の習得を図るため  
集合研修会を開催**

【対象】

就農後おおむね5年以内の生産者、後継者候補、従業員、市町村等の関係機関

【研修内容】

- ・飼養管理や飼料生産等に関する講義
- ・先輩農家の農場視察



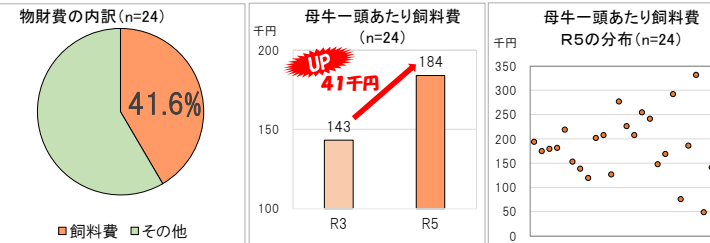
12



## 6.活動の成果

### (1) 経営管理に対する意識醸成

【分析結果の傾向(例:喜界町)】



- ・物財費で大きく占めるのは「飼料費」
- ・「母牛一頭あたり飼料費」は令和3年～令和5年にかけて約41千円増  
農家ごとにばらつきあり

- ・複数戸の分析結果をもとに飼料費等の地域標準が明らかになった
- ・生産者が自らの経営状況を判断する基準を設定できた

13

## 6.活動の成果

経営・繁殖性成績等の分析結果の傾向は、  
研修会や巡回等で生産者・関係機関と共有

➡関係者みんなで地域の実態を理解



【個別カウンセリングでの事例】

事例①



飼料費が年々高くなっています。地域平均よりも高いですね。

畑の更新をしておらず、ローズグラスの収量が少ないのかも...雑草も多い。畑の更新と栽培品種を見直してみようかな。

事例②



産次数が地域平均よりも高い...!

繁殖図を参考に、分娩間隔が長くなってきた牛は更新したほうが良いかも。更新で活用できる事業もありますよ。

➡経営改善への取組を行う生産者が見られる(経営的視点の醸成)

14

## 6.活動の成果

### (2) 自給粗飼料の確保

#### (2)-① 褐点病に強い永年草の推進

6圃場の収量調査と飼料成分分析を実施

| 収量             |                          |                          |
|----------------|--------------------------|--------------------------|
| 収量はローズグラスの2倍近く |                          |                          |
| 項目             | 収穫1回あたりの<br>生草収量(kg/10a) | 収穫1回あたりの<br>乾物収量(kg/10a) |
| トランスバール ※1     | 2,302                    | 562                      |
| ローズグラス ※2      | 1,263                    | 316                      |

※1 奄美大島内でのR7の収量調査結果(6圃場平均)

※2 与論町でのH29～R元の収量調査結果(1圃場平均)

### 栄養価



➡追肥や収穫時期などの栽培管理指導により、収量・栄養価の高い粗飼料生産を実証できた

15

## 6.活動の成果

### コスト ローズグラスの半分 作付面積

永年草を3年間栽培した場合のコスト(税抜)比較

|                        | トランスバール | ローズグラス  |
|------------------------|---------|---------|
| 3年間の収穫回数(回)            | 11      | 10      |
| 収穫1回あたりの平均乾物収量(kg/10a) | 562     | 316     |
| 3年間の合計乾物収量(kg/10a)     | 6,184   | 3,160   |
| 3年間の<br>物財費合計          | 種苗費     | 0       |
|                        | 肥料費(基肥) | 20,220  |
|                        | 肥料費(追肥) | 40,610  |
|                        | 燃料代     | 19,113  |
|                        | 減価償却費   | 50,214  |
| その他                    | 41,082  | 41,082  |
| 合計(円/10a)              | 171,239 | 176,886 |
| 乾物1kgあたりの物財費(円/kg)     | 28      | 56      |

※種苗費・肥料費は「令和7年度あまみ農協価格」、燃料代は「鹿児島県令和7年度ガソリン価格(軽油・大島)」をもとに計算。減価償却費、その他(租税公課、諸材料費、修繕費、衣料費、共済掛金、賃借料)は「R2県経営管理指導指標(ローズグラス)」より抜粋。



- ・導入農家がメリットを感じ、作付面積を増やす
  - ・特長に興味を持ち、新たに取組む農家が現れる
- ➡作付面積が拡大

➡コスト低減が期待できる

16

## 6.活動の成果

### (2) 自給粗飼料の確保

#### (2)-② 収量向上に向けた土づくり

土壤分析実施8戸のうち**6戸**が改善に向けた取組

#### 事例

春夏作で発芽不良が見られた→収穫量も少ない

|               |          |          |
|---------------|----------|----------|
| 栽培品種: スーダングラス | 当該畑の生草収量 | 県基準の生草収量 |
| 10aあたり生草収量(t) | 2.4      | 6~8      |

#### 【土壤分析結果】

- ・発芽不良が見られた地点はpHが低い
- ・他の成分も低い

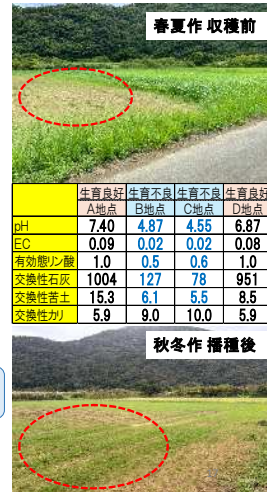
#### 【対応】

施肥設計をもとに、土壤改良資材を投入



秋冬作はまんべんなく発芽♪  
生育が良かったので収穫が楽しみ！

➡施肥効果を生産者が実感し、土づくりへの理解が進む



17

## 6.活動の成果

### (3) 子牛の飼養管理技術向上

#### (3)-① 喜界町版子牛育成飼料給与マニュアルの検討

#### 【調査結果】

- ・粗飼料・濃厚飼料の給与比率は県肉振協マニュアルと概ね同様
- ・ローズグラスの栄養価は購入乾草と差がない
- ・適期収穫で、柔らかく消化しやすい飼料となっている
- ・子牛の発育は標準以上
- ・粗飼料生産費は40円/kg(モデル農家聞き取り: 購入乾草92円/kg)

喜界町版  
マニュアルの作成

- ・モデル農家の飼料給与内容・給与量
- ・ローズグラス栽培のポイント
- ・粗飼料生産費 など

➡子牛の商品性向上・生産費低減が期待できる優良事例として研修会等で活用

| 飼料成分分析結果                  |           |                         |
|---------------------------|-----------|-------------------------|
| ローズグラス子牛用<br>(カンボラ・カネー混播) | モデル<br>農家 | 比較<br>購入乾草<br>(モデル農家使用) |
| 粗タンパク質(%)                 | 6.5       | 5.0                     |
| TDN(%)                    | 57.2      | 57.5                    |

【その他】  
○難分解性繊維の値が低い  
○可溶性無窒素物(NFE)が高い  
→子牛が消化しやすい

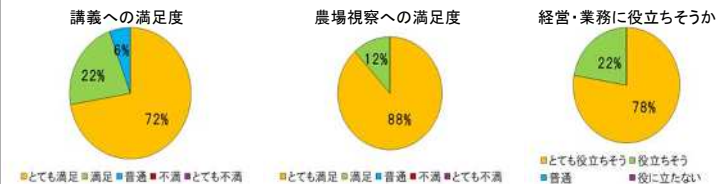
18

## 6.活動の成果

### (3) 子牛の飼養管理技術向上

#### (3)-② 新規就農者への研修会開催

【研修会アンケート: R6~R7集計】



(参加者コメント)

- ・初めての研修で、興味があることばかりで新鮮だった。
- ・自給粗飼料を増やす取組をもっと増やしていきたいと思った。
- ・行政からの新規就農者に対する指導・アドバイス等を広く周知できる場となる。
- ・担い手が別地区の農家と情報交換できる貴重な時間になったのでは。

➡研修会満足度も高く、今後の飼養管理改善に活かされることが期待される

19

## 7.今後の対応

### 経営

- 経営分析結果のさらなる深掘り  
(経営体ごとに異なる飼料費の要因調査: 自給粗飼料の活用状況や哺乳形態 等)
- 優良事例の発掘

### 飼料生産

- 自給粗飼料増産に向けた指導  
(土づくり, 更新時期, 適期収穫, 畑の規模・特性に応じた草種・品種選定 等)
- トランスバークの推進  
(植付・収穫の指導強化, 他草種との混播利用の検討)

### 飼養管理

- 新しい「子牛育成飼料給与マニュアル」に基づく指導
- 子牛への自給粗飼料活用に関わる検討

波及

生産者の経営発展  
地域の肉用牛生産基盤の維持・発展



研修会等の学びの機会の充実

20

